

# 緊急水田農業情報

(令和3年12月)

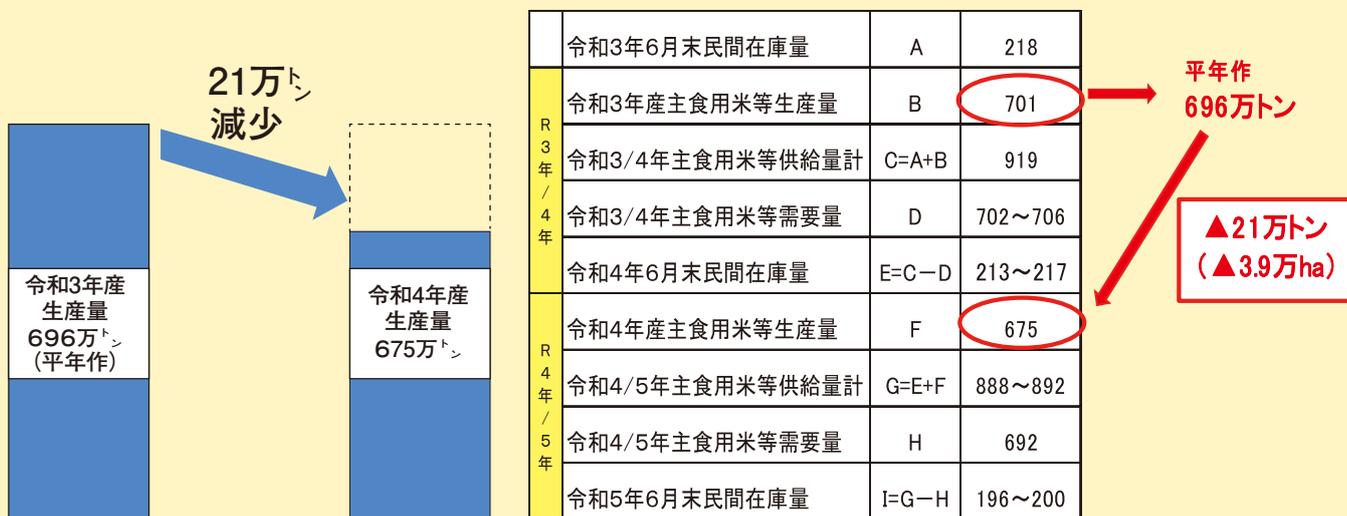
1

## 主食用米の状況

- ◆ 令和4/5年主食用米等需要量は692万トンとなる見通しであり、令和5年6月末の民間在庫量の水準を200万トン以下にするためには、令和4年産主食用米等生産量は675万トンとなり、令和3年産の生産量696万トン（平年作）より21万トン以上減らす必要があります。

【令和3/4年及び令和4/5年の主食用米等の需給見通し】

(単位：万トン)



【出典】農林水産省、「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（11月19日）」より

【主食用米の民間在庫状況（在庫増加量上位5道県）】

(単位：玄米万トン)

道県名	令和3年9月 ①	令和2年9月 ②	対前年同月差 ①-②
北海道	23.1	14.2	+8.9
宮城	13.7	9.2	+4.6
栃木	14.0	11.1	+2.9
青森	10.9	8.3	+2.6
秋田	16.0	14.1	+1.9
全国計	214	190	24

【出典】農林水産省、「米に関するマンスリーレポート」より

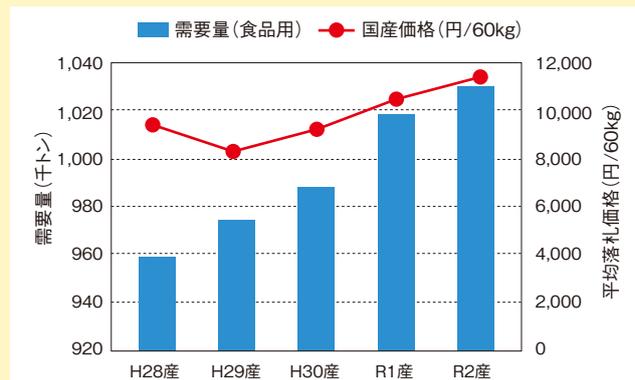
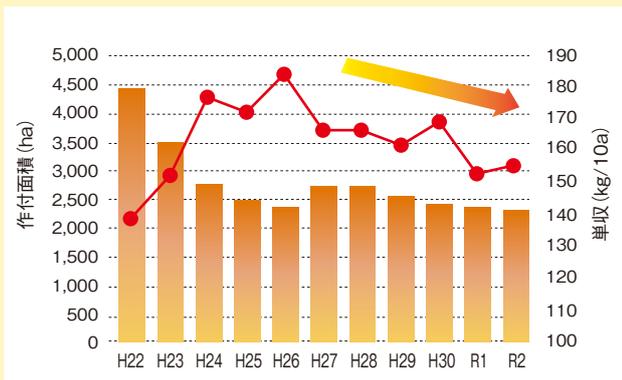
定着性の高い・将来の需要増が見込まれる

**収益性の高い品目への転換を図りましょう!!**

## 2 大豆

- ◆ 作付面積や単収は減少傾向となっていますが、国産大豆へのニーズは高まっており、今後も安定した需要が見込まれ、主食用米に比べて、労働1時間あたりの収入額が高い作物です。
- ◆ 各種交付金を活用することで、主食用米を上回る収入が期待できます。
- ◆ 水田麦・大豆産地生産性向上事業により、麦・大豆を生産する地域の生産者等による生産性向上のための団地化の推進や、営農技術・機械・施設の導入等を支援しています。

【大豆の生産状況、需要・価格動向】



【水田麦・大豆産地生産性向上事業の支援対象】

**【①団地化の推進】**  
団地化等に向けた産地の話し合い等の必要経費を支援 (定額)

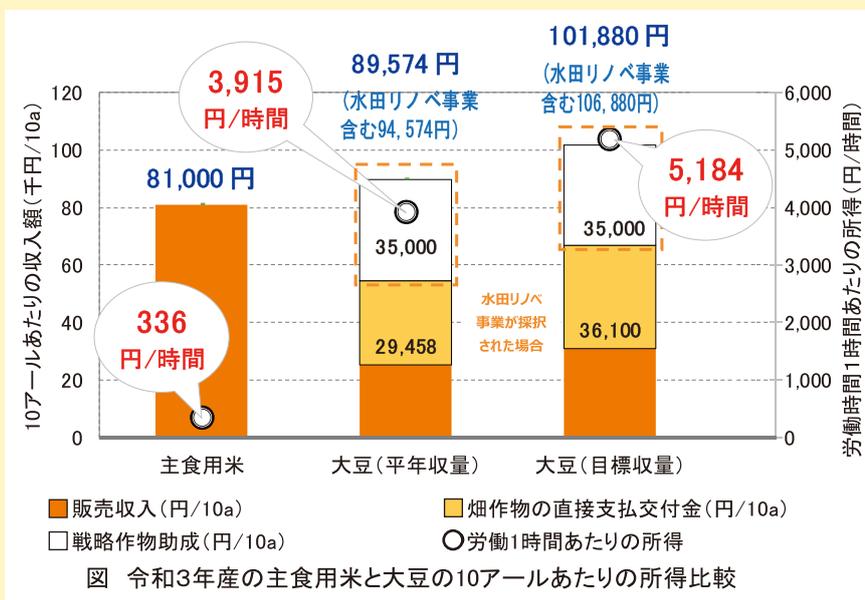
**【②営農技術の導入】**  
排水対策等の営農技術の導入を支援 (定額)

先進技術の導入 (例. 排水対策技術等)  
→ 10,000円/10a 等

**【③施設整備・機械導入】**  
生産性向上に必要な施設・機械導入を支援 (1/2)

汎用コンバイン (麦・大豆収穫機)

【主食用米との収入の比較】



※主食用米は、9,000円/60kgで計算しています。

※水田で大豆を生産した場合は、戦略作物助成 35,000円/10aが助成されます。

※水田リノベ事業が採択された場合、戦略作物助成 35,000円/10aの代わりに40,000円/10aが交付されます。

※畑作物の直接支払交付金は R2産の1等交付単価で算出しています。

※令和4年産の詳細な支援内容については、今後提示予定です。

- ◆ 本県の輸出用米の状況は、輸出額で令和2年産は9,900万円（前年比約2.4倍）となっています。
- ◆ 収益性を高めるためには、多収品種や低コスト生産体制の確立が必要です。
- ◆ 県内の多収品種は、主食用米の業務用向けを中心に「ほしじるし」や「にじのきらめき」が普及しており、多肥栽培において11俵以上の単収が期待できます。  
※品種の選定については、販売先と十分調整の上、決定してください。

## 【米の輸出の状況】

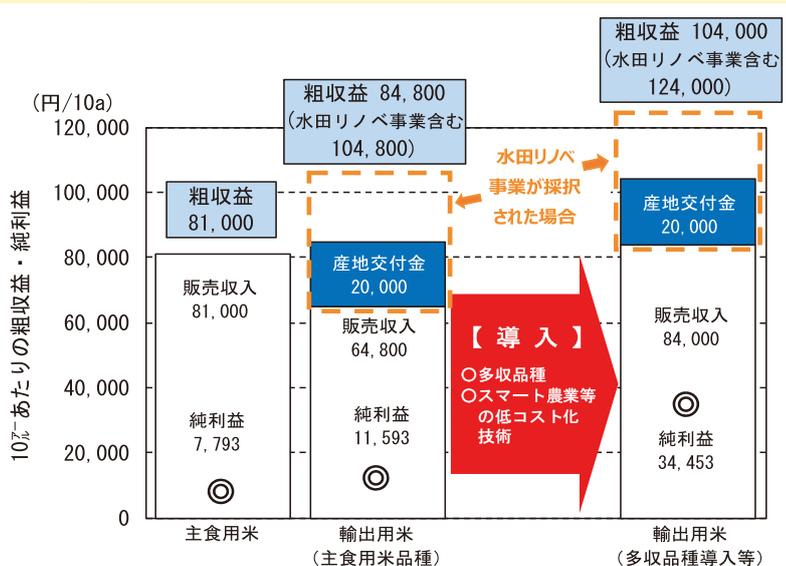
	H30年度	R元年度	R2年度
輸出額・作付面積	4,500万円・54ha	4,200万円・52ha	9,900万円・106ha

※輸出額は聞き取り。作付面積は、新規需要米の都道府県別の取組計画認定状況（農林水産省公表）

## 【県内で生産されている多収品種の特性】

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	比較比率 (%)	千粒重 (g)	縞葉枯 抵抗性
ほしじるし	8.11	9.21	77	393	710	110	23.1	○
にじのきらめき	8.05	9.14	76	423	706	109	24.0	○
(比較参考)あさひの夢	8.11	9.21	83	373	649	100	21.3	○

※農業試験場における多肥栽培(慣行の1.5倍施肥)での比較試験結果(令和2年度)



・販売収入は、主食用米は9,000円/60kg（R3産コシヒカリ概算金）で計算しています。

・輸出用米の販売収入は、7,200円/60kg（R3産概算金）で計算しています。

・多収品種は、単収700kg/10aで計算しています。

・水田リノベ事業が採択された場合、産地交付金の20,000円/10aに代わり40,000円/10aが交付されます。

・純利益は、「純利益＝粗収益－生産費」で計算しています。

①生産費：10aあたり73,207円/10a

(H29経営診断指標の農業経営費)

②低コスト技術：5%コスト低減で計算しています。

## 水田リノベーション事業

**事業の概要** 輸出等の新市場開拓を図るため、実需者ニーズに応じた価格・品質等に対応するために必要となる低コスト生産等の取組を行う農業者の皆様に支援します。

**支援内容** ➤ 対象者

販売農家・集落営農（水田活用の直接支払交付金の交付対象水田が対象）

➤ 対象作物・単価

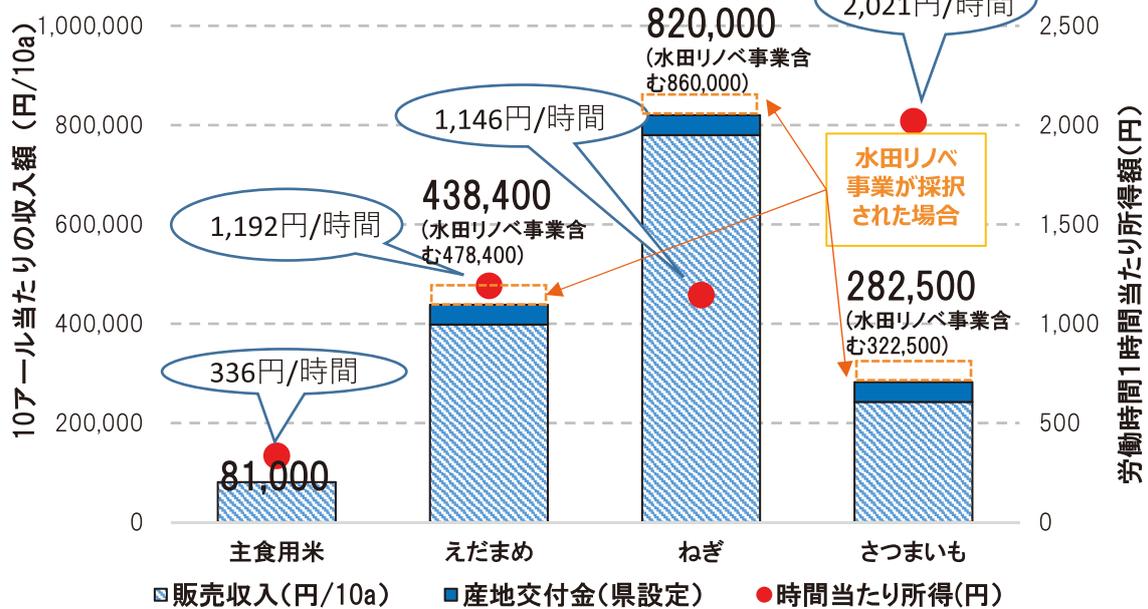
作物毎に定める低コスト生産等の取組面積に応じて支援

対象作物（令和4年産基幹作）	単価
新市場開拓用米（輸出用米）、麦・大豆、高収益作物（野菜等）、子実用とうもろこし	4万円/10a
加工用米	3万円/10a

（主な要件・留意事項等については、地域農業再生協議会等にお問合せください。）

- ◆ 主食用米に比べ、10a当たりの収入額や労働時間当たりの所得が高い作物です。
- ◆ 県の産地交付金により、水田で新たに栽培することで、40,000円/10a（既存の場合は12,000円/10a）の助成が受けられます。（※ 担い手要件等があります）
- ◆ 地域協議会等で露地野菜の助成措置を設けている場合は、別途助成を受けられます。

【令和3年産の主食用米と露地野菜の10a当たりの収入比較】



※ 主食用米は、令和3年産のコシヒカリの概算金9,000円/60kg、収量540kg/10aで計算しています。  
 ※ 産地交付金については、令和3年度の予定単価をもとに試算しています。  
 ※ 水田リノベーション事業が採択された場合、40,000円が交付されます。  
 ※ えだまめ、ねぎ、さつまいもは、単収や販売先等により収入が異なります。

### 露地野菜を導入する場合に受けられる主な支援制度等

- ① **産地交付金 40,000円/10a**(既存12,000円/10a) ※令和3年度の予定単価  
(主な要件) 担い手であること(認定農業者、認定新規就農者、集落営農)
- ② **水田リノベーション事業 40,000円/10a**  
(主な要件) 農業者又は集荷業者等が実需者と販売契約を締結すること  
低コスト生産等の取組メニューのうち、3つ以上の取組を行うこと
- ③ **土地利用型園芸産地展開加速化事業(県単)生産資材等:1/2 施設(機械):4/10(1/3)**  
(主な要件) 目標年度までに概ね10ha以上(又は販売額概ね5,000万円以上)の産地化
- ④ **土地利用型園芸指導力強化事業(県単) 専門家からの助言等(無料)**  
(活用のイメージ) 先進農家や食品企業からの生産・販売のポイントについて助言等
- ⑤ **産地生産基盤パワーアップ事業(国庫) 生産資材等:1/2 機械:1/2**  
(主な要件) 販売額又は所得額の10%以上の増加等  
露地野菜は概ね10ha(ただし稲からの転換の場合:5ha)以上の産地

### 栃木県農業再生協議会

栃木県農政部生産振興課 : Tel:028-623-2279 J A 栃木中央会農業対策部 : Tel:028-616-8531

ホームページ : <https://www.tcchu-ja.or.jp/saiseikyo/>